

平成18年2月9日

未定稿

食品安全のリスクコミュニケーションに関する国際ワークショップについて(概要)

開催日時： 平成18年2月1日(水) ~ 3日(金)
開催場所： 内閣府食品安全委員会事務局 中会議室
出席者：

Dr. Sandra Lavigne	Canadian Food Inspection Agency(カナダ)
Ms. J. A. M. (Annette) Lijdsman	Voedsel en waren autoriteit(オランダ)
若松 征夫	東京電機大学 教授)
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会安全政策推進室長)
西郷 正道	リスクコミュニケーション官
引地 和明	農林水産省消費・安全局消費者情報官
藤井 充	厚生労働省大臣官房参事官(医薬食品担当)
嘉田 良平	アマタ株式会社 持続可能経済研究所代表

(食品安全委員会委員、専門委員、関係府省担当官も一部出席)

開催趣旨： 食品安全委員会の調査事業の一環として、欧州、北米から、食品に係るリスクコミュニケーションの有識者を招聘して国際ワークショップを開催し、有識者の知見や経験を共有するとともに、リスク分析における消費者の役割、参画の在り方について議論して、食品安全委員会が行うリスクコミュニケーションの今後の方向性について検討する。

主な発表：

『日本における食品安全に関するリスクコミュニケーションの現状と課題』

西郷 正道

- ・ 『リスクコミュニケーション=意見交換会』？
- ・ 意見交換会では、参加者層が固定化。双方向の意見・情報の交換に難
- ・ 消費者を中心とする非専門家に、いかに実質的にリスク評価の過程に参画いただけるか

『リスク分析における消費者の役割と参画 より良きリスクコミュニケーションのために-』

鬼武 一夫

- ・ 食品安全基本法施行 情報量の増加・透明性の向上
- ・ 消費者の役割：「批判する立場」から「意見を述べる立場」へ
- ・ プラス/マイナス双方の情報を提供
- ・ マスメディアとの関係構築

『カナダにおける食品安全とリスクコミュニケーション』

サンドラ・ラビーン

- ・ 消費者団体、NPO、学生組織等とパートナーシップを構築
- ・ 消費者に対しては正確なリスク認識のための情報提供が重要
- ・ メディアとの対応は時間を争う場合もある

『オランダにおける食品安全のリスクコミュニケーションにおける消費者の役割と参画』

アネット・リーズマン

- ・ リスクコミュニケーションは翻訳のプロセス
- ・ 対象を絞った対応の重要性
- ・ 報道状況をフォローし、誤解・混乱を招くようなことがあれば迅速に対応

『リスクコミュニケーションへの提案 参加型テクノロジーアセスメント実践研究の立場から』

若松 征夫

- ・ リスクコミュニケーションの目的、達成目標を明示すべき
- ・ 「コンセンサス会議」、「フォーカスグループインタビュー」など、場作りの必要性

『欧州の食品安全リスクコミュニケーションの特徴と近年の動向』

嘉田 良平

- ・ 政府と消費者の役割分担
- ・ リスクを分かりやすく表現する努力
- ・ メディアとのコミュニケーション（透明性・迅速性）

主な論点：

- ・ リスク分析、特にリスク評価の過程への消費者の参画と役割
- ・ 消費者の参画を具体化するための、リスクコミュニケーションの手段・技術

今後の取り扱い（案）：

- ・ 調査報告として取りまとめの上、リスクコミュニケーション専門調査会での調査審議に資する。
- ・ 実際のリスクコミュニケーションに新たに取り入れるべき点があれば、積極的に取り組み

以上